

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

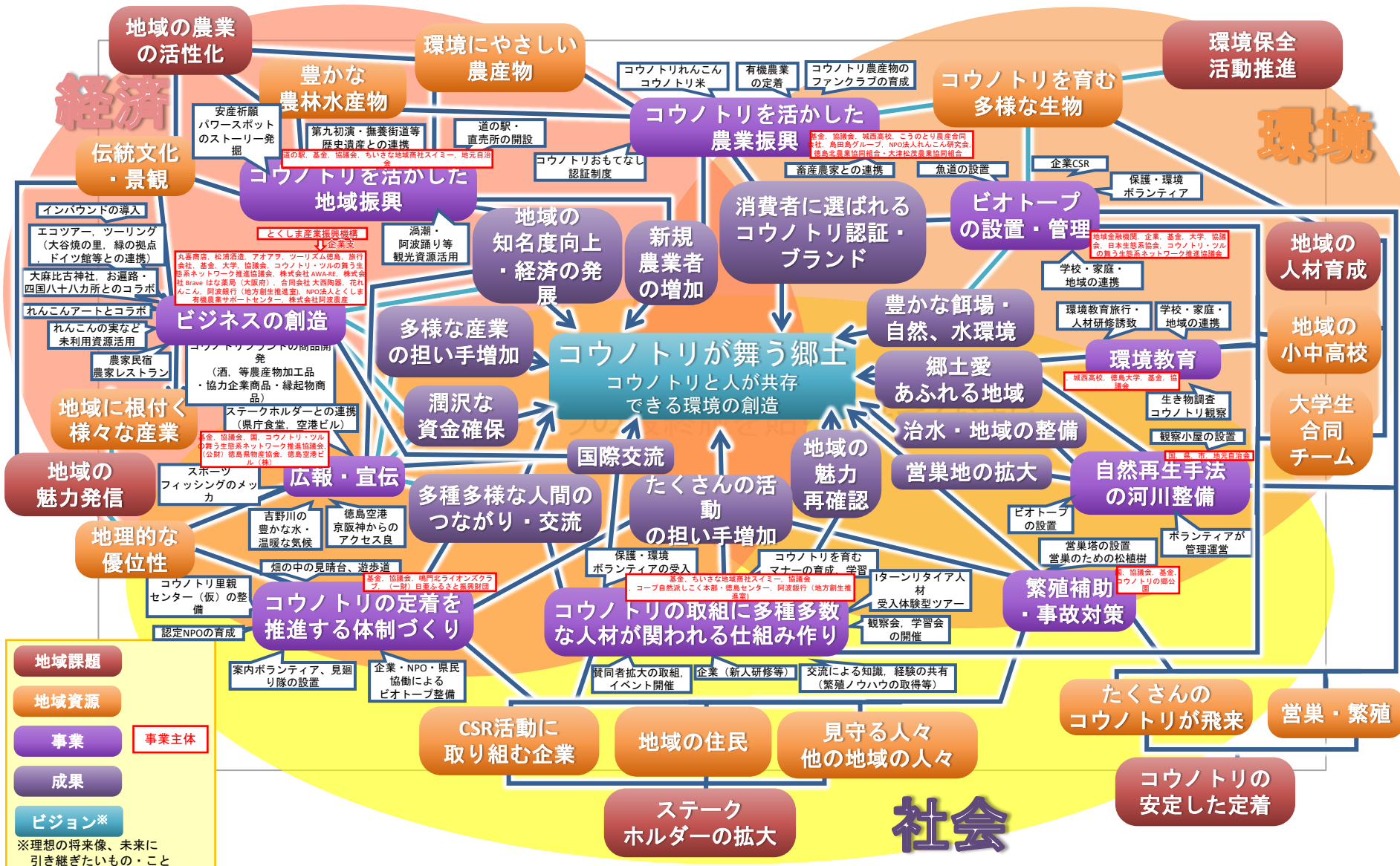
活動団体名：コウノトリ定着推進連絡協議会
活動地域：徳島県

活動におけるテーマ・キャッチコピー

コウノトリの野生復帰で地域をパワーアップ Ⅱ

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

コウノトリ定着推進連絡協議会



地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	ステークホルダーと資金システムの5倍増		
	概要	将来的には会員企業等や資金の5倍増を実現するため、NPOを「認定」化するための準備を進める計画だったが、新型コロナの影響から会員数・資金の維持も困難な事態となり、具体的な認定化の取り組みに至らなかった。 一方、予想に反して会員数は維持できた。		
	課題・ボトルネック	経済情勢の好転が待たれる。 認定化に必要なノウハウが不足している。	力を借りたい人物・企業像	ステークホルダーとなり得る企業等と結び付けてくれる

2	事業名	他組織との連携による環境活動と経済活動の連携強化		
	概要	国交省のコウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会等と連携し、旧吉野川の自然再生事業を進めるとともに、地域の環境や文化をコンテンツとするエコツアーを企画し、試行実施した。 自転車を使ったエコツアーについては、連携する事業者を得られ、商品化の目処が立った。		
	課題・ボトルネック	ガイドの育成、確保。価格設定。	力を借りたい人物・企業像	企業研修との結び付けができる

3	事業名	コウノトリブランド商品の開発、販売の拡大		
	概要	鳴門市のコウノトリブランド認証は、認証数が2から6へ増加。 NPO法人への寄付商品群の開発では、コウノトリのお酒やれんこんカレーの販売開始など、いくつかの進展を見た。 主力商品であるコウノトリれんこんなどを大都市圏へ販路を広げる取り組みは、進まなかった。		
	課題・ボトルネック	販売する側の体制が脆弱	力を借りたい人物・企業像	情報発信のノウハウの提供や協力をしてくれる

今年度新たにチャレンジしたこととその具体的な取組

- 企業、団体を地域と結びつけるコーディネーターの配置
9月から地域コーディネーター1名を配置して頂き、地場産業事業者や団体との連携が進み、商品開発や活動の広がりつつある。Ex.コウノトリのお酒の開発・販売、伝統工芸品の商品化。エコツアー試行。県物産館、空港等でのキャンペーン実施。
- 環境ローカルビジネスとなり得るエコツアー商品化
モニターツアーや検討会を実施。
- コウノトリれんこんの知名度向上
とくしまマルシェに出展し、コウノトリれんこんの新たな販売方法として「節売り」を試行。のぼりなどの販促グッズを制作。県庁食堂で全農と連携して、れんこんのPRを実施。

現在の達成状況

- コロナ禍で減少が予想されるNPOの会員数（とくに企業、団体）の維持
企業、団体の会員数88→89
- 新たに環境ローカルビジネスに参加する企業、店舗の増加
新たな企業の参画：酒造会社、窯元、エコツアー事業者、地銀、生協、薬局
- エコツアーの試行
モニターツアーとして自転車ツアー3回、カヌーツアー1回、外国人向けツアー2回実施。自転車ツアーは1事業者による商品化に目処がついた。
- 大都市圏で販路拡大に協力してもらえるパートナーづくり
首都圏および京阪神圏で3者（社）以上を目指したが、達成できず。

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと②

- 主力商品であるコウノトリれんこんの販売に関して支援チームから有益なアドバイスや取引先の紹介をして頂いたが、販売者側の体制が不十分なことから、成果をあげるに至らなかった。
- 支援チームに付随して設置して頂いた「地域コーディネーター」の活動は、地元事業者との連携を広げ、商品開発やエコツアーのビジネスモデルづくりに大いに成果を上げている。



今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 環境省からのアドバイスを受け、地銀や生協と接触し、全く知らなかった事業展開の方策の提示や提案を頂け、具体的な連携も見えて来た。
- 相手からは予想以上に歓迎して頂き、「話を聞きに行く」ことの重要性を改めて認識した。

地域のコンセプトを描く！

- ステークホルダーリストを整備していく中で、新たな連携の発想が生まれ、連携が徐々に充実している。
- 一方では、ステークホルダーで不足する分野に気づかされた。

事業のストーリーを語る！

- 視点を変えることで、新しいステークホルダーや事業のタネが見つかることに気がついた。

地域の目標を立てる！

- 環境－経済－社会の3分野のバランスを考えることの重要性を再認識し、このバランスを念頭においた目標づくりを意識するようになった。

2ヶ年の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 環境省をはじめ多くの機関による様々な支援制度や事業が受けられる環境が整えられている。
- 一方、当活動団体自らの力不足を痛感している。
- 現状では取組の相当な部分をボランティアスタッフが担っているが、目標達成にはマンパワーと自主財源を基礎とする資金システムの充実強化が必要。

今後の展望

- ボランティアスタッフ中心では目標達成は不可能なため、NPO法人に有給職員を置けるだけの組織体制や財政の充実強化を目指す。
- 今年度新たにステークホルダーとして加わった金融機関や流通組織との連携を深め、新しい事業を展開したい。
- 2020年～2021年にかけてコウノトリ生息エリア内でナベヅルが越冬。両種が見られるのは当地しかないので、秋以降ナベヅルも定着させ、コウノトリとツルの二大希少種を活用した取組を展開したい。

